



状態目標毎の指標一覧（素案）



令和6年8月2日

環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室



指標設定及び中間提言に向けたスケジュール（案）

年度	時期	検討内容	詳細
令和5年度	第1回 検討会	—	（実施済み）
		指標候補の整理 指標設定フローの検討	- 基本戦略 1 ～ 5 の状態目標の要素に対して指標を設定 - 指標設定においてはフローを作成して優先度を整理 - 有識者ヒアリングを実施し、指標及び評価方法について意見聴取（結果は参考資料1参照）
令和6年度	第2回 検討会 8/2	指標設定の 基本的な考え方 、 指標の ランク分類 及び 評価のイメージを確認	指標設定・ランク分類フローの妥当性検討 - ランク別指標を用いた評価のイメージのすりあわせ - ランク分類に係る論点についての方針整理
	↓	指標の再整理 中間提言用の評価結果の作成	- 検討会で指摘があれば指標設定フローを見直し - 必要に応じて指標を追加で選定の上、中間提言に用いるものを整理 - それらの指標データを収集し、グラフ等を含む、中間提言用の評価結果を作成
	第3回 検討会 1～2月	中間提言用の 指標の決定 中間提言の まとめの方向性を検討	- 中間提言用の指標一覧（案）を検討し、確定 - 中間提言用の評価結果について検討 - 中間提言のまとめの方向性について検討
	↓	中間提言（案）の作成	検討会での意見を踏まえて中間提言（案）を作成
令和7年度	第4回 検討会 6月	中間提言（案）の検討	中間提言（案）を検討し、確定

指標設定とランク分類に係る論点

①対象とする状態目標の要素への適合性の考え方

対象とする目標の要素の内容に沿っているかどうか、全体的か部分的かをどう判断するか

- ✓ 例えば、生態系の質に関していえば、一つの種の変化を表す指標はC指標で、一部の生物群の変化を表す指標はB指標と判断するか。特定の生態系の変化を表す代表的な種と考えられるものであっても、一つの種についてのものであればC指標とするか。
- ✓ 例えば、生態系サービスに関していえば、供給サービスなら農産物や水産物などと要素を細かく分けることができるが、各要素に対して対応する指標があればA指標と判断するか。

②地理的スケール（全国の網羅性）の捉え方

どのくらいの調査範囲であれば全国を網羅していると判断するか

- ✓ 例えば、モニタリングサイト1000は「面」のデータではないものの、全国的な広がりのある「点」のデータを集合的に分析しているので、全国を網羅していると判断するか。
- ✓ 例えば、都市生態系での三大都市圏、島嶼生態系での個別諸島でのデータは、全国を網羅しているとはいえないためB指標と判断するか。

③指標区分の分け方

目標の要素に対する指標の大区分・小区分・細区分の分け方が適切であるか。

- ✓ 目標の要素ごとに評価する上で追加や修正すべき指標区分はあるか（①の適合性とも関わる）

- 各状態目標を要素分解し、各要素について資料3に示したフロー（案）に沿って指標を設定した。

- 指標名冒頭の記号はそれぞれ下記を示す。

- ・GB：昆明・モンリオール生物多様性枠組に基づくヘッドライン指標
- ・NB：国家戦略において現在設定されている指標
- ・JB：過去のJBOで使用している指標
- ・記号なし：新たに追加する指標

※GBは今後COP16において詳細が決定される予定であり、他指標と重複する可能性がある

- 指標一覧（素案）は現時点での指標群とそのランク分類を示したものであり、本検討会での議論等も踏まえて更新していく。

基本戦略1 生態系の健全性の回復

状態目標1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
全体として生態系の規模が増加し	生態系全体	面積		JB 土地利用面積	GB Extent of natural ecosystems: 自然生態系の広がり	
	森林	面積		NB 森林生態系面積 JB 林地からの都市的土地利用への転換面積(目的別用途) JB 森林面積(天然林・人工林)	森林伐採後の農地転用面積(新規・論文情報)	JB 人工造林面積
	農地	面積		JB 耕作放棄地面積 JB 農地(耕地)から宅地・工場用地などへの転用面積(人為的廃面積)	NB 農地生態系面積	JB 森林以外の草生地(野草地)の面積 JB アワ、ヒエ(雑穀類)の作付面積 JB 水田整備面積及び水田整備率
	都市	面積		JB 都市公園の面積	JB 三大都市圏の土地利用	
	河川	面積		一級、二級河川の河川延長(新規・国交省河川データブックより)		
	止水(湖、湿地)	面積			NB 陸水生態系: 湿地面積 JB 全国のため池数の変化	
	海域	面積		NB 沿岸・海洋生態系(干潟)面積 NB 沿岸・海洋生態系(藻場)面積 NB 沿岸・海洋生態系(サンゴ礁)面積 JB 浅海域の埋立面積	JB 沿岸生態系の規模の変化	

【③指標区分】
生態系区分はこれで概ね問題ないか。

【①適合性】
農地生態系の面積や河川延長の増減から生物多様性の回復を判断できるか。適合していなければ、C指標に位置づけるべきか。

基本戦略1 生態系の健全性の回復

状態目標1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
質が向上すること で健全性が回復している	生態系全体	生物種数・ 多様性、生息・生育数、 生息環境 (質)			GB Red List of Ecosystems:生態系レッド リスト	
			特定外来生物の侵入状況(質)	特定外来生物の種の分布(新規・自然環境保全基礎調査総合解析)		JB 海外から輸入される「生きている動物」等の輸入量 JB 海外から輸入される「生きている動物」の近年の輸入数
			気候変動の影響(質)	気候変動指標種の分布変化(新規・自然環境保全基礎調査総合解析)		
		ネットワーク化		NB 生態系の連続性・生態系ネットワーク指数(植生図より生態系の連続性を指数化)		
	森林	生物種数・ 多様性、生息・生育数、 生息環境 (質)		NB 森林の多様度(モニ1000による種の多様度) 森林地性鳥類個体数(新規) 森林地性鳥類分布(新規) 樹木BA変化(新規) 樹木多様性変化(新規) 下層植生多様性変化(新規)	JB 哺乳類在来種の撮影個体数変化	JB 松くい虫被害量(被害材積) NB ニホンジカ、イノシシの推定個体数
			ネットワーク化		JB 森林が連続している地域	
	農地	生物種数・ 多様性、生息・生育数、 生息環境 (質)		NB 農地生態系を構成する種の生息状況(モニ1000による昆虫類、両生類の頻度)(チョウ類個体数変化等) 開放地性鳥類個体数(新規) 開放地性鳥類分布(新規)	JB 里地里山を主な生息地とするチョウ類の個体数	NB 生物多様性に配慮した農業に取り組む農業者数
			ネットワーク化		JB 里地里山地域(農地とその他の土地被覆のモザイク性を指標とした里地里山地域の分布)	
	都市	生物種数・ 多様性、生息・生育数、 生息環境 (質)		都市性鳥類個体数(新規) 都市性鳥類分布(新規)	全国の町丁目別緑被率(新規・論文情報)	JB 東京都におけるヒバリの分布の変化 JB 東京都におけるメジロの分布の変化 JB 東京都におけるハシブトガラスの分布の変化 JB 足立区における鳥類の確認個体数 JB 住宅地におけるムクドリの個体数変化

【③指標区分】
小区分・細区分はこれで概ね問題ないか。
(ネットワーク化は不要か)

【①適合性】
第2の危機として捉えると
A指標とも考えられる。

【②地理的スケール】
全国の都市を捉えた指標が少ない

基本戦略1 生態系の健全性の回復

状態目標1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
質が向上すること で健全性が回復している	陸水域	河川	生物種数・多様性、生息・生育数、生息環境(質)	河川水辺の国勢調査に基づく魚類の個体数、種数(新規・推進費研究成果より提供) JB 一級河川における外来種の確認種数		JB 砂利等の採取量
			ネットワーク化			
		止水(湖、湿地)	生物種数・多様性、生息・生育数、生息環境(質)	NB 陸水生態系(湖沼・湿地)を構成する種の生育生息状況(モニタリングによる生物の種数・頻度)(ガン・カモ類占有率等) JB 湖沼・海域における全窒素濃度及び全リン濃度及び達成状況		JB カエル・ホタルの個体数変化 JB 秋期の渡りにおける内陸性のシギ、チドリの個体数の傾向 JB 霞ヶ浦、琵琶湖におけるアオコの発生件数 JB 地下水環境基準(硝酸、亜硝酸)の達成状況 JB 閉鎖性水域(湖沼)における環境基準(COD)の達成度 JB 主要汚染物質の検出状況の経年推移(魚類・貝類)
【③指標区分】 小区分・細区分はこれで概ね問題ないか。 (ネットワーク化は不要か)						
	海域	生物種数・多様性、生息・生育数、生息環境(質)	NB 沿岸・海洋生態系(藻場)モニタリングサイトにおけるアマモ場・藻場平均被度及び種組成の変化(モニタリングによる生物の種数・頻度) NB 沿岸・海洋生態系(干潟)モニタリングサイトにおける干潟の底生生物確認種数・生息密度(モニタリングによる生物の種数・頻度) NB 沿岸・海洋生態系(サンゴ礁)モニタリングサイトにおけるサンゴ被度 人工護岸率(新規・自然環境保全基礎調査)	JB 海鳥営巣数の変化 GB Proportion of fish stocks within biologically sustainable levels:生物学的に持続可能な水準にある魚類資源の割合 海洋酸性化状況(新規・水研機構)	NB 沿岸・海洋生態系(干潟)を構成するシギ、チドリの個体数・確認種の変化傾向 JB カレイ類の漁獲量 JB 沖縄本島周辺のサンゴ被度 JB 内湾及び閉鎖性海域における赤潮の発生件数 JB 閉鎖性海域における環境基準(COD)の達成度 NB 漁獲量 NB 漁獲量のうちTAC魚種の占める割合 エチゼンクラゲ、アイゴ、ウミガメによる磯焼け被害数(新規・水産庁資料)	

【③指標区分】

小区分・細区分はこれで概ね問題ないか。
(ネットワーク化は不要か)

基本戦略1 生態系の健全性の回復

状態目標2 種レベルでの絶滅リスクが低減している

国家戦略の 目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
種レベルでの絶滅リスクが低減している	レッドリスト掲載種の絶滅リスク		GB Red List Index: レッドリストインデックス NB 環境省レッドリストにおいてランクが下がった種の数 絶滅危惧種の分布(新規・自然環境保全基礎調査総合解析)	NB レッドリスト掲載種数 JB 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種の割合 JB 南西諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合 JB 小笠原諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合 JB 南西諸島における絶滅危惧種の減少要因	元・普通種(新規・自然環境保全基礎調査総合解析) JB 希少動植物の採取圧の現状と過去の傾向 JB トキ・コウノトリの野生個体数

【②地理的スケール】
離島における絶滅危惧種の
リスク指標はBと判断されるが違和感ないか

状態目標3 遺伝的多様性が維持されている

国家戦略の目標 要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
遺伝的多様性が維持されている	野生生物の遺伝的多様性	遺伝的多様性の減少		GB The proportion of populations within species with an effective population size > 500: 有効集団サイズが500を超える種内の個体群の割合 植物の有効集団サイズ500を超える割合(新規・論文情報) 種内で維持されている遺伝的に独立した個体群の種内における割合(新規・論文情報)	
		遺伝子汚染(遺伝的攪乱)			
	人間が利用する農作物等の遺伝的多様性			JB 農作物の遺伝資源保存数	

基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決（NbS）

状態目標1 国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できる	供給サービス	食料	農産物	JB 水稻の生産量 JB 小麦・大豆の生産量 JB 野菜・果実の生産量 JB 農作物の多様性 JB コメ品種の多様性 JB 畜産の生産量		JB 水稻の生産額 JB 麦類・豆類の生産額 JB 野菜・果実の生産額 JB 畜産の生産額
			特用林産物	JB 松茸・竹の子の生産量 JB 椎茸原木の生産量 山菜(天然)の生産量(新規・農水省統計調査)		
			水産物	JB 海面漁業の生産量 JB 海面養殖の生産量 JB 漁業種の多様性 JB 内水面漁業の生産量 JB 内水面養殖の生産量		JB 海面漁業の生産額 JB 海面養殖の生産額 JB 内水面漁業の生産額 JB 内水面養殖の生産額
			淡水	JB 取水量		
			木材	JB 木材の生産量 JB 生産樹種の多様性 JB 森林蓄積 JB 薪の生産量 JB 木質粒状燃料の生産量		JB 木材の生産額
			原材料	JB 竹材の生産量 JB 木炭の生産量 JB 繭の生産量		JB 養蚕の生産額
			遺伝資源			

【③指標区分】
小区分・細区分はこれで概ね問題ないか。

【①適合性】

- ・供給サービスはポテンシャルと実際の利用量の2軸が考えられるところ、利用量の指標が現状多いが問題ないか。
- ・下記前回検討会意見のとおり一人当たりの指標を用いるべきか確認したい。

前回検討会意見：総量を指標として評価すると、人口減少により正確な評価ができないため、一人当たりの指標を用いると良い

基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決（NbS）

状態目標1 国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できる	調整サービス	生物学的コントロール (花粉媒介や病虫害抑制)		JB 生物農薬の登録状況		
		文化的サービス				
	文化的サービス	宗教・祭り		JB シキミ・サカキの生産量 JB 巨樹・巨木数の変化		
		教育		JB 子供の自然体験への参加割合		JB 環境教育 NGO 数 JB 図鑑の発行部数
		景観		JB 景観の多様性(景観多様度の変化)		
		伝統芸能・伝統工芸		JB 生漆の生産量 JB 酒類製成量 JB 酒蔵・濁酒製成場・地ビール製成場の数		JB 伝統工芸品の生産額 JB 伝統工芸品従業者数 JB 食文化の地域的多様性
		観光・レクリエーション		JB レジャー活動参加者数	JB 国立公園利用者数	

【③指標区分】
小区分・細区分はこれで概ね問題ないか。

＜有識者ヒアリングより＞
S-21での生物文化多様性の捉え方は以下の3点
①具現化した生物文化多様性(祭り、伝統工芸品など)
②生きた生物文化多様性(祭りの実施頻度、参加者数など)
③スチュワードシップ(保全団体、登録制度など)
(UNU-IAS・西リサーチフェロー)

【①適合性】
・文化的サービスの指標として、他要因の影響を受け得る実際の利用量の指標を掲げているが、考え方として問題ないか。

基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決（NbS）



状態目標1 国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している

国家戦略の 目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
生態系サービスが 現状以上に向上し ている ↑	供給サービ ス	食料	農産物			
			特用林産物			
			水産物	水産資源量(新規・水研機構評価結果)		
		資源	淡水			
			木材			
			原材料			
			遺伝資源			
	調整サービ ス	気候の調 節		JB 森林の炭素吸収量 JB 蒸発散量		JB 森林の炭素吸収の経済価値
				JB 都市緑化等による温室効果ガス吸収量 JB NO ₂ 吸収量 JB SO ₂ 吸収量	藻場によるCO ₂ 吸収・固定量(新規)	JB NO ₂ 吸収の経済価値 JB SO ₂ 吸収の経済価値
		大気の調 節				
		水の調節		JB 地下水涵養量		
		土壌の調 節		JB 土壌流出防止量 JB 窒素維持量 JB リン酸維持量		
		災害の緩 和		JB 洪水調整量 JB 表層崩壊からの安全率の上昇度 JB 海岸の防災に資する保安林の面積		
		生物学的コ ントロール (花粉媒介 や病虫害抑 制)		JB 花粉媒介種への依存度		
	文化的サー ビス					

【③指標区分】
目標要素を前2ページ
と分ける必要はあるか。

基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決（NbS）

状態目標2 気候変動対策による生態系影響が抑えられるとともに、気候変動対策と生物多様性・生態系サービスのシナジー構築・トレードオフ緩和が行われている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
気候変動対策による生態系影響が抑えられるとともに、気候変動対策と生物多様性・生態系サービスのシナジー構築が行われている	緩和策	シナジー	NB 自然生態系による炭素吸収量		
	適応策	シナジー	NB 「田んぼダム」の取組面積		NB 適切に保全されている海岸防災林等の割合 NB 森林の持つ多面的機能を総合的かつ高度に発揮させる保安林の面積
気候変動対策による生態系影響が抑えられるとともに、気候変動対策と生物多様性・生態系サービスのトレードオフ緩和が行われている	緩和策	トレードオフ	NB 再生可能エネルギーの導入によって失われた自然生態系の面積 再生可能エネルギー施設と重要地域・絶滅危惧種分布（新規・自然環境保全基礎調査総合解析） 太陽光発電の設置面積のうち太陽光発電の設置を促進すべき地域に設置された面積割合（新規 ※評価方法要検討）		一定規模以上の風力発電施設のうち、鳥類のセンシティブティマップに係る割合（新規） 生態系の改変を伴う再エネ導入設置に関するガイドラインや条例の件数（新規）
	適応策	トレードオフ			

【③指標区分】
適応策のトレードオフは具体的に想定できるものがないが、設定すべきか。

【①適合性】
状態よりは行動を表す指標と考えC指標に分類したが、適切か

基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決（NbS）



状態目標3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
野生鳥獣との適切な距離が保たれ	野生生物による直接的な被害	鳥獣管理	NB ニホンジカ、イノシシの推定個体数		JB 狩猟者数 JB 野生鳥獣対策予算額、被害防止計画作成市町村数
鳥獣被害が緩和している	野生生物による直接的な被害	農作物、森林被害	NB 全国の野生鳥獣による農作物被害額 NB 主要な野生鳥獣による森林被害面積		
		人的被害	NB クマ類による人身被害件数 JB ハチによる人的被害		
	健康へのリスク	感染症	JB ダニ媒介感染症の患者数等		NB 野生鳥獣に関する感染症により、種の存続を脅かす野生鳥獣の大量死や希少鳥獣への悪影響が確認された数

基本戦略3 ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標1 生物多様性の保全に資するESG投融資を推進し、生物多様性の保全に資する施策に対して適切に資源が配分されている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
生物多様性の保全に資するESG投融資を推進している	ESG投融資	投資額	サステナブル投資残高(新規・JSIF)		
		投資機関	【③指標区分】 指標区分は適切か		NB 生物多様性に関連する投融資原則への国内の署名機関数
生物多様性の保全に資する施策に対して適切に資源が配分されている	資源配分		【③指標区分】 状態目標として評価できるか。上の目標要素と一体にすべきか。		

状態目標2 事業活動による生物多様性への負の影響の低減、正の影響の拡大、企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷の評価		NB,JB 国内の事業活動を通じた日本全体のエコロジカルフットプリント	NB 国内の事業活動を通じた日本全体のマテリアルフットプリント	
事業活動による生物多様性への正の影響の拡大	技術・サービス			NB 環境産業(自然環境保全)の市場規模 NB 生物多様性保全に貢献する技術・サービスを提供している企業の割合	
企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	【③指標区分】 指標区分は適切か 第一の危機の指標を入れるか。			GB Number of companies reporting on disclosures of risks, dependencies and impacts biodiversity: リスク、依存、および生物多様性への影響の開示について報告している企業の数	
	情報開示			NB 経営方針等へ生物多様性を組み込んだ企業割合 NB 生物多様性に関する情報開示を行っている企業割合・数 NB 生物多様性に関する合理性の高い目標を設定している企業割合・数	

基本戦略3 ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標3 持続可能な農林水産業が拡大している

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	JB 農薬・化学肥料の生産量 JB 殺虫剤・殺菌剤・除草剤の国内出荷量の推移 JB 地下水環境基準(硝酸、亜硝酸)の達成状況 環境保全型農業直接支払交付金受給面積(新規) 有機農業取組面積割合(新規)	NB 生物多様性に配慮した農業に取り組む農業者数	
		林業		GB Progress towards sustainable forest management: 持続可能な森林管理への進展 NB 森林施業の適切な実施に関する計画である森林経営計画等の面積の割合 FSC FM認証森林面積(新規)	
		水産業		GB Proportion of fish stocks within biologically sustainable levels: 生物学的に持続可能な水準にある魚類資源の割合 NB 漁獲量のうちTAC魚種の占める割合 水産資源量(新規・水研機構評価結果) MSC認証漁業者数(新規) ASC認証経営体数(新規) MEL認証経営体数(新規)	NB 漁獲量
	遺伝資源利用				

【③指標区分】
遺伝資源利用は区分として必要か

【①適合性】
有機農業は慣行農業よりも土地利用面積が増える可能性が指摘されるが、A指標として適切か。

基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の 価値の認識と行動



状態目標1 教育や普及啓発を通じて、生物多様性や人と自然のつながりを重要視する価値観が形成されている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
教育や普及啓発を通じて生物多様性や人と自然のつながりを重要視する価値観が形成されている	関心・意識		NB,JB 自然に対する関心度 JB 生物多様性の保全のための取組に対する意識 JB 森林に期待する働きの選択割合		JB 地球環境問題に関する関心度
	認知		NB 生物多様性の言葉の認知度 JB 生物多様性国家戦略の認知度	NB 生産と消費が生物多様性に影響を与えることへの理解度 NB 生物多様性保全に貢献する認証制度の認知度	

状態目標2 消費行動において、生物多様性への配慮が行われている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
消費行動において、生物多様性への配慮が行われている	行動変容		NB 週1回以上有機食品を利用する消費者の割合 NB 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合 木材製品購入の際の環境や社会的な観点の意向(新規)		NB 環境に配慮されたマークのある食品・商品を選ぶことを意識している消費者の割合 環境に配慮した代替製品の購入条件
	負荷削減		NB,JB 国内の消費活動を通した1人あたりエコロジカルフットプリント	NB 国内の消費活動を通した1人あたりマテリアルフットプリント	

【③指標区分】
指標区分は適切か

基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の 価値の認識と行動



状態目標3 自然環境を保全・再生する活動に対する国民の積極的な参加が行われている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
自然環境を保全・再生する活動に対する国民の積極的な参加が行われている	関心・意識		NB 生物多様性の保全につながる活動への意向を示す人の割合		
	行動変容		NB 生物多様性の保全につながる活動を既に実施している人の割合 JB 環境保全活動への意識(自然や環境を守るための活動の行動者率) 生物多様性保全活動への取り組み状況(新規)		

【③指標区分】
指標区分は適切か

基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と 国際連携の取組



状態目標1 生物多様性の情報基盤が整備され、調査・研究成果や提供データ・ツールが
様々なセクターで利活用されるとともに、生物多様性を考慮した空間計画下
に置き、多様な空間スケールで様々な主体の連携が促進されている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
生物多様性の情報基盤が整備され、調査・研究成果や提供データ・ツールが様々なセクターで利活用されるとともに	情報基盤		NB 生物多様性地域戦略DBダウンロード数・アクセス数 NB モニタリングサイト1000ダウンロード数・アクセス数 NB 河川水辺の国勢調査DBダウンロード数・アクセス数 NB 自然環境保全基礎調査ダウンロード数・アクセス数		
生物多様性を考慮した空間計画下に置き		計画策定	NB 生物多様性地域戦略策定地方公共団体の割合 NB 生物多様性国家戦略2023-2030の策定を踏まえ、生物多様性地域戦略を改定した地方公共団体の割合	GB Percent of land and seas covered by biodiversity-inclusive spatial plans:生物多様性保全のための空間計画に含まれる陸域および海域の割合	
多様な空間スケールで様々な主体の連携が促進されている		活動	生物多様性の保全と持続可能な利用に関する活動を行う市町村別団体数(新規・自然環境保全基礎調査総合解析)		JB 地方公共団体の環境関連部局職員数の推移

【③指標区分】
指標区分は適切か

基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と 国際連携の取組



状態目標2 世界的な生物多様性保全に係る資金ギャップの改善に向け、生物多様性保全のための資金が確保されている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
世界的な生物多様性保全に係る資金ギャップの改善に向け、生物多様性保全のための資金が確保されている	公的資金		GB 生物多様性および生態系の保全と持続可能な利用に関する政府開発援助(ODA)を含む国際的な公的資金供与 NB 生物多様性および生態系の保全と持続可能な利用に関する国外の公的資金 GB,NB 生物多様性および生態系の保全と持続可能な利用に関する国内の公的資金		NB 生物多様性への悪影響がありうるすべての分野での補助金・奨励措置の予算総額
	民間資金		GB,NB 生物多様性および生態系の保全と持続可能な利用に関する民間資金		

状態目標3 我が国による途上国支援による能力構築等が進み、その結果が各国の施策に反映され、生物多様性の保全が進められている

国家戦略の目標要素	指標区分		A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分			
我が国による途上国支援による能力構築等が進み	支援体制		NB 自然環境保全を担う途上国機関の体制強化、人材育成人数		
その結果が各国の施策に反映され、生物多様性の保全が進められている	施策反映		NB 生物多様性日本基金(JBF2)による支援を受けた国の生物多様性国家戦略改定数		

【③指標区分】
指標区分は適切か